

ユニセフの 開発のための教育

あなたのクラスでやってみませんか！



ともだち再発見

【目的】

子どもたちが自分のよいところや得意なことに気づくと同時に、他の人のよいところや得意なことに気づくこと（セルフエスティーム）を促す。子どもたち一人ひとりが肯定的に認め、認められるクラスづくり、集団づくりをする。

【所要時間の目安】 30分

【人数】 20人以上

【用意するもの】

右図の「ともだちはっけんシート」を人数分

おすすめかた

子どもたちに「ともだちはっけんシート」を配る。

子どもたちは教室を歩き回って、シートの質問にあてはまる人を探し、ひとりにつきひとつだけ答えてもらう。できるだけ多くの答えを得られるようにする。

全員がそれぞれのシートの質問にあてはまる人を探し終えた（15～20分）ころ着席し、以下のことについて話し合う。

- ・今回発見したともだちのいいところ
- ・自分がともだちと共通しているところ
- ・この活動で感じたこと



ともだちはっけんシート



なまえ

スポーツの とくいなひと () どんな スポーツ? ()	おとなになったらなにになるかきめているひと () なにに? ()
りょうりの とくいなひと () どんな りょうり? ()	ほかのくにのなまえを いえるひと () なんていう くに? ()
だれかをたすけたことのあるひと () なにをしたの? ()	やさいの なまえを5つ いえるひと () なんていう やさい? ()
おもしろいところへいったひと () どこへ? ()	ものをなおすのがうまいひと () なにを? ()
さいきん なにかができるようになったひと () なにを? ()	だいずきな ほん があるひと () ほんのなまえ ()

活動を発展させて

あるととっても便利なともだちリスト

「ともだちはっけんシート」の各項目別に担当グループをつくり、グループのメンバーは自分のグループが担当する項目について、自分の見つけた人をそれぞれ発表し、リストを作ります。例えば、サッカーのうまい人 さん、 さん、野球のうまい人 さん...というようにまとめます。

グループでの作業が終わったら、それぞれのリストを合わせて全員のリストを作成します。

リストはいつでも名前を追加できるようにしておきましょう。

ともだちさがし

参加者の中から2人を選びます。2人のうちの1人は参加者の中のある人の特徴を言う役になり、もう1人はその特徴を聞いて参加者の中から当てはまる人を見つけ出す役になります。特徴を言う人は、その人の肯定的な特徴しか言うことはできません。また、それが誰であるかは直接わからないように工夫します。例えば、その子のいいところや好きなところ、得意なこと、親切にしてくれたことなどを説明するようにします。見つけ役はその説明をもとに参加者の中から当てはまる人を見つけ出します。うまく見つけられたら、今度は別の2人がそれぞれの役になり活動を続けます。

人間カルタ

のバリエーションです。今年2月20日の朝日新聞「ひととき」欄に掲載された記事をご紹介します



幼稚園に通う6歳の長男の手はカルタの子のいい所を一生懸命考え、つかえながらも言っている。決して悪い所を言わない。取り手の手はそれを認めて、カルタに突進していく。カルタの子は、自分のいい所を友達に言ってもらって、たくさんの子たちが自由に向かって来られるうれしさを味わっている。

「人間カルタ」に感動
喜びだった。A子ちゃんのお母さんから聞いた。子供も大人も、自分のいい所を認めてもらったらうれしいのね。日々他人の悪い所が気になることが多い私も、これからはいい所を認めてあげたい。そんな当たり前のことを改めて気づかせようと思った。

東京都新宿区
竹田 ゆかり
主婦・36歳

ひととき